



- 会長／小口泰史
- 副会長／中村文明・林 尚孝
- 幹事／山崎典夫
- 会報委員長／梅垣和彦

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-1 ・ Tel/0266-22-6939 ・ Fax/0266-23-6939
URL: okayarc.org ・ E mail: okayarc@bz04.plala.or.jp
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2717 回例会 2015 年（平成 27 年）8 月 4 日(火)

点	鐘：小口泰史	司	会：瀬戸雅三
斉	唱：君が代、奉仕の理想	ラッキーNo	: NO. 17 宮坂晃介
唱	和：四つのテスト		
皆	勤 祝：宮坂宥洪 30 年		
誕	生 祝：濱 俊弘・牛山幸一・北澤洋之介		



結婚祝

会長挨拶

本日は「四つのテスト」についてお話しさせていただきます。

今から 80 年以上も前の大恐慌のなか、一人のロータリアンが 4 項目からなる簡明な倫理指針を考案しました。

創案者はハーバート J. テーラー氏です。シカゴロータリークラブの会員であった彼は破産寸前の調理器具メーカーの会社の再建を依頼されました。その折、社員たちに倫理的価値観の目安として、およそ 100 語からなる文章をしたためましたが、長すぎると判断して最初は 7 つの項目にまとめました。四つのテストの最初は、「七つのテスト」だったのです。しかしこれも長いと考えた彼は、それを自問形式の 4 項目にまとめ上げました。それが今日の「四つのテスト」です。

1930 年代に誕生して以来、80 年以上の歳月が過ぎ去ったこの現代社会では、四つのテストは、その有効性を喪失してしまっているのでしょうか？ それとも、変化のテンポの速いこの時代に於いても、事業や専門職に携わる人たちの指針として保持されているのでしょうか？

ロータリーの友 2000 年の一月号にこの様に記載されています。

1) 真実かどうか — 真実是不変であり、時代を超越するものです。真実は正義なくしては存在し得ません。 2) みんなに公平か — 顔を突き合わせてとは言わないまでも、腕を伸ばせば届くような所で、激しくやり合うビジネス手法に代わり公平さを取り入れたビジネスは、お互いの関係を傷つけるよりも、その関係向上に役立ってきました。 3) 好意と友情を深めるか — 人は生まれながらにして、他者と協力していく存在であり愛情を示すことは生来備わっている本能です。 4) みんなのためになるかどうか — この項目は、食うか食われるかを原則とする無慈悲な競争を排除するものであり、それに代わって建設的で創造的な競争を導入するものです。

幹事報告

- 次週 8/11 の例会は指定休日となります。次回は 8/18 の例会です。
- 2015-16 年度クラブ計画・2014-15 クラブ報告書が出来上がりましたのでレターケースに入れてあります。1 年間ご活用ください。

ご挨拶 中村文明会員

7/27 八十二銀行跡地に待望でありました岡谷本店を再度開店することができました。7 年前に茅野に工場を移してから岡谷市内で必ず製造場所を作りたいと言う念願が叶いましてオープンすることができました。皆様にはご協力をいただきありがとうございました。微力ではございますが職業を通し地域のためになるように頑張っていきたいと思っております。開店に際しましては皆様にお心遣いいただき、誠にありがとうございました。御礼申し上げます。



卓話「わが社の歴史」

小口 隆 会員

当社、株式会社南信社(旧株式会社南信社蚕種製造所)の歴史は、登記上昭和25年となっております。本年67期となりますが、お蚕様に携わった歴史を振り返ると江戸時代までさかのぼります。

江戸時代 1827年文政4年生れの高祖父が広い田畑・桑畑を所有する養蚕農家であったようです。そんな家に生まれた曾祖父が、35歳の若さで自宅の敷地内で明治31年「保全館蚕種製造所」という会社を創業し、蚕種の製造をはじめました。従ってお蚕様に携わって来たという部分では、私は5代目となるかもしれません。

明治末期から大正時代「保全館の蚕種」は評判が良く、販路は徐々に広がって行き、長野県内はもとより、山梨県へも広がっていったそうです。

そして大正から昭和へと時代が変わる中、昭和初期、金融恐慌がおきて生糸の価格が65%近くも暴落するなど厳しい時代を迎えます。昭和5年に曾祖父が亡くなり、祖父が就任した頃には世界恐慌の影響で繭価 1 貫匁(3750g)の値段は12円から1円80銭まで大暴落するなど蚕糸業界は不況のどん底に落ちていったそうです。

その影響で倒産する製糸会社も相次いだそうですが、そんな不況の中でも保全館は優良蚕種の製造を手がけ、蚕室などを拡張するなど積極的な経営をし、県内の中信地方を始め、静岡県、千葉県などに分場を設置するなどして販路を広げていったそうです。その結果、昭和15年頃には保全館の従業員は120人ほどになり、製造高は片倉、鐘紡などに続き、全国でも4位になったこともあったそうです。

しかしながら、時代背景は日中戦争の拡大により戦時色が強くなりました。すべての物資は配給制となり、蚕種業の統制も対象になるなど、個人で蚕種業を続けることが困難となり保全館は解散し、祖父は蚕糸業者らへ呼びかけ昭和16年に「共同組合諏訪社」を設

立しました。しかし太平洋戦争が勃発するなど、食糧増産のために桑畑が畑に転換され、養蚕飼育が激減していった為に、諏訪社は僅か2年ほどで解散を余儀なくされます。

戦時中、蚕種の製造が出来ない祖父らは防空暗幕を製造する軍需工場を設立したこともあったそうですが、終戦後、蚕糸業法の改正など一定の条件を満たしていた祖父らは蚕種業の復元を許され、自宅敷地内の保全館の跡地に「蚕種協同組合南信社」を設立します。2年ぶりの蚕種業の再開に祖父らは喜び、寝る間も惜しんで働いたそうです。

昭和23年、南信社の経営は順調に推移し、自宅敷地内だけでは手狭になったため、旧本社の跡地に移りました。そして昭和25年、協同組合組織から「株式会社南信社蚕種製造所」に組織変更がなされました。これが登記上の弊社の創業年になっております。

昭和30年代前後には蚕種業は戦前の隆盛ぶりを取り戻し、南信社の蚕種は品質が良く業績も伸びて行ったそうです。山梨県を始め群馬県、埼玉県など関東方面に計5箇所の出張所を設けるなど販路を広げて行きました。蚕種の販売は国内だけに留まらず、ソ連向けの蚕種の輸出量の30%を占めたこともあったそうです。そうして昭和40年はじめ頃には従業員も150人を数え、全国6位にランクインされたこともあったそうです。

蚕種業が最盛期であった時代であったと思いますが、時代の変化を危惧し、昭和34年頃には蚕種業に加え、抵抗器製造を主とする「株式会社南信社電子工業部」を長野県工業技術総合センター(旧長野県精密工業試験場)の隣接地に父が設立しました。試験場の指導を受けながらリード線形固定抵抗器の製造を手がけました。

東京の秋葉原にある商社の協力工場として、商社ブランドの抵抗器を月産2千万本以上製造しておりました。

昭和60年代、国内の製糸業の低迷が著しく、出張所が閉鎖されるなど出張所跡地の土地活用を模索する中、不動産賃貸業へとつながっていきます。比較的恵まれた立地条件の群馬県高崎出張所、山梨県甲府出張所の跡地には量販店の出店が相次ぎました。

一方で、昭和62年頃より、電子工業部では抵抗器製造に加え、新たに電子基板にチップ部品を搭載する表面実装の事業が立ち上りました。

私が入社した平成2年頃には当社の経営は蚕種、電子、不動産賃貸の3本柱となっております。

時代が平成へと変わるなか、蚕種業はひとつの時代を担って来た会社の礎でしたが、時代のすう勢とともに需要の低下は避けられず、平成4年には100年近く続いた蚕種製造所の看板を降ろすことになりました。その後、旧本社の跡地にも量販店の出店が続きました。

平成12年祖父の他界により、翌年私が社長に就任しました。就任した頃は、抵抗器製造の生産数量は減少し、得意先より値下げを強いられ、材料費の高騰などにより利益が減っていき、売上は年々下降するなど厳しい経営環境でありました。どのように継続して行けば良いのかわかりませんでした。1年1年じっくり会社の経営を見極めながら、父と意見を交わしたことも多々ありましたが、何よりも会社を継続することが大切であると信じ、昭和34年より始めた抵抗器の製造から平成18年撤退を致しました。

また表面実装部門も1番の得意先が中国に進出するなど受注量が激減します。半量産の仕事が大半を占めておりましたが、得意先が変わるなど多種少量の仕事に代わって行きました。また搭載部品が年々極小化になるなど、設備の導入も必要不可欠になっていきます。

リーマンショック以降はすべての得意先の注文は激減して行きました。酷い時は週2日

ほどの仕事量しか確保出来ない時期もありました。そのような中で事業を継続していくことは困難となり、平成22年表面実装からも撤退するなど事業の縮小を余儀なくされ、当社の経営は不動産賃貸業のみとなってしまいます。

電子工業部の工場跡地を有効活用するために、平成24年本社を移転しました。明治31年保全館が産声を上げた創業地である自宅の敷地内に114年ぶりに再建されました。

当初不動産賃貸業のみの経営でしたが、一昨年から太陽光売電事業、そして昨年より私が個人で始めたコインランドリー事業を法人化するなど、会社の経営は不動産賃貸・太陽光売電・コインランドリーの3本になり現在に至っております。

先人が築き上げた当社の歴史に日々感謝しながら、健全な経営をしていければと考えます。

ニコニコボックス

小口 隆 本日の卓話、宜しくお願いします。

牛山幸一・梅垣和彦・太田博久・大橋正明・小口泰史・笠原新太郎・北澤洋之介・佐伯克己・薩摩 建・佐藤有司・瀬戸雅三・高木昭好・竹村一幸・中嶋孝一・濱 毅・林 尚孝・林 靖高・原 史郎・宮坂晃介・宮坂 伸・守屋麻里・矢島 實・山岸邦太郎・山崎典夫 連日の酷暑ですが、皆様 水分を充分にとって健康に注意しましょう。小口 隆会員 卓話楽しみにしています。

中村文明 7/27 市内に本店を開店することが出来ました。これもメンバーの皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

濱 俊弘 創業月に当たります。100年を何年か越えました。

宮坂 伸 今月は創業月です。皆様のおかげ様です。

矢島 進 創業月です。

出席報告

会員数40名、出席者30名、出席率78.95%、前々回訂正86.84%

2015~2016年度RIテーマ
世界へのプレゼントになろう
Be a gift to the world

